

「小学校区コミュニティ推進基本方針」を見直す

市民ワークショップ 通信

2025/10/29

編集：那覇市役所 市民文化部 まちづくり協働推進課

■令和7年度 校区意見交換会開催！

令和7年度 校区意見交換会が、2025年10月26日（日）10:00から那覇市役所本庁舎1階ロビーにて、大盛況のうちに開催されました。まちづくり協議会関係者、市民ワークショップ参加者、そして市長や部局長を含む行政職員や運営ボランティア職員の総勢130名以上集結。「まちづくり協議会のあり方」と、それを支える「行政の役割」をテーマに、熱意あふれる対話が繰り広げられました。会場は終始、活発な発言と笑顔があふれ、市民と行政が同じ目線で地域の未来を考え抜く、過去最大級の対話の場となりました。



▲昨年を上回る参加者で本庁舎ロビーが賑わいました！

「小学校区コミュニティ推進基本方針」の見直しについてみなで話し合う

本市では、各小学校区のまちづくり協議会が日頃の活動や地域課題を共有し、互いに学び合う場として「校区意見交換会」を毎年開催しています。

この会は、まちづくり協議会関係者同士の情報交換だけでなく、新たな気づきを得て今後の活動に活かしてもらうことを目的としています。

今年度の意見交換会は、昨年に引き続き「小学校区コミュニティ推進基本方針」の見直しに向けた取り組みの一環として実施しました。まちづくり協議会関係者に加え、地域に関心を持つ市民や行政職員も交え、幅広い立場から意見やアイデアを出し合う場となりました。

方針改定のプロセスでは、市民と行政の対話を大切にしながら共に考えることを大切にしています。

そして、少子高齢化や人口減少、自治会加入率の低下など、地域を取り巻く社会状況が変化の中で、従来の「組織をつくる」ことを中心としたまちづくりだけでは対応しきれない課題が見えてきました。特定の担い手に業務や負担が集中する現状を見直し、市民と行政が共に新しい地域のあり方を考える機会として、この意見交換会を開催しました。

新たに策定をめざす「地域づくりのみちしるべ」（2026年策定予定）は、従来の「小学校区を単位としたコミュニティ推進」から、「つながりを基盤とした地域共生社会の実現」へと理念をシフトさせようとしています。

今回の意見交換会は、その理念を共有し、地域と行政がそれぞれの立場から地域の未来を考える第一歩となるものです。



会の冒頭アイスブレイクの様子▶

市長の朝ごはんは「ゆしどうふ」と「肉じゃが」でした！

参加者が膝をつき合わせて対等な関係で対話をする空間

意見交換会は、加治屋理華市民文化部長の開会挨拶でスタート。その後、まちづくり協働推進課から方針改定の経緯や「ゆるやかなつながり」を基盤とする地域共生社会の実現というビジョンが共有されました。当日のプログラムは、参加者全員の意見を大切にワークショップを中心に円形のボード「えんたくん」を囲んで対等な関係での対話が促進されました。

デジタルツールを積極的に活用した点も特徴です。グループ対抗クイズ大会で和んだ後、議論した意見をスマートフォンを通じて投稿し、全体でリアルタイムに共有する仕組み（slido）が導入されました。これにより、限られた時間の中で多様な意見を効率的かつ平等に集約することが可能となりました。特に盛り上がったテーマは、以下の3点です。

1. 「ゆるやかなつながり」の重要性

参加者は、もし地域からつながりが失われた場合、「治安の悪化」「孤立の助長」「経済活動の停滞」「行政負担の増加」「災害時の助け合い不足」など、深刻な影響が生じることを改めて認識しました。意見交換会の最後には、地域におけるつながりが希薄だった場合の未来の姿を可視化した動画が共有され、参加者はその重要性を深く理解しました。

2. まち協と行政それぞれの役割

まちづくり協働推進課長や市民ワーキングチームの代表者から、新しい方針におけるまち協と行政の関係性が説明されました。まち協が目指すのは「ゆるやかなつながり」のある地域づくりの実現であり、行政はその「協働のパートナー」として、共に活動を進めることが求められています。

市民からは、まち協が「地域と行政をつなぐ役目」を担うことの重要性が再認識され、職員側からは「しっかりと伴走していきたい」という意見も示されました。

3. 自分にできること

最後のワークでは、「地域づくり・つながりづくりのために自分にできること」を参加者全員が書き出し、共有しました。参加者からは、「無理なく、おせっかいと協力に努めたい」、「まずは身近な人への声かけ、一緒に楽しいことをやっていく人を増やしたい」、「できることをできるときにできる人がやっていけるを確立したい」といった前向きな決意が多数寄せられました。

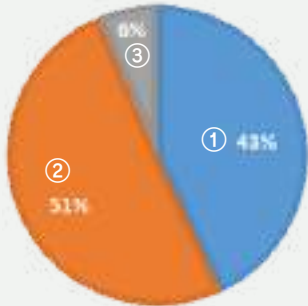


意見交換会の最後には、市長や協働によるまちづくり推進審議会添石会長からも講評をいただきました。「この10年で少子高齢化など社会の姿が大きく変わりました。市民と行政が力を合わせて築いた“道しるべ”は、これからの地域づくりの指針です。AIなど新しい技術も活かしながら、皆さん一緒に次の那覇をつくっていきましょう。（知念市長）」。「市民と行政が共に歩みながら「道しるべ」をつくり上げてきたことに大きな意義を感じました。この方針が地域の未来を照らす指針となるよう、私自身も決意をもって取り組んでいきたいです。（添石会長）」

アンケート結果と参加者の声

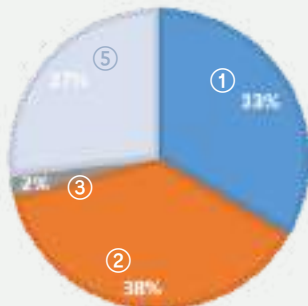
今回の意見交換会は、参加者アンケート（回収率84.5% 93/110人）でも非常に高い評価を得ました。多くの参加者が「大変満足」または「満足」と回答し、今後の活動に対するモチベーションも「非常に上がった」または「上がった」と答えています。特に、グループワークでの意見交換、生成AI動画の解説、そして市長や部局長などの市幹部職員の参加が、印象的だった点として挙げられました。

【質問】 本日の意見交換会全体について、ご満足いただけましたか。



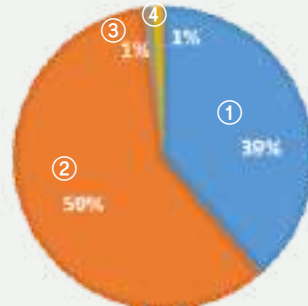
選択肢
① 大変満足
② 満足
③ 普通
④ やや不満
⑤ 不満

【質問】 ご自身が関わる地域における今後の地域づくり活動の方向性について、新たな視点や具体的なヒントは得られましたか。



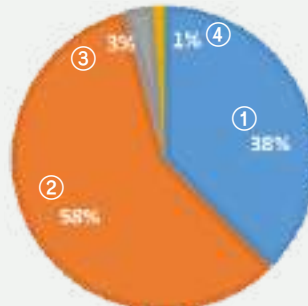
選択肢
① 非常に多く得られた
② いくつか得られた
③ あまり得られなかった
④ 全く得られなかった
⑤ 無回答

【質問】 「那覇市が目指す社会像（ゆるやかなつながりのある社会）」（案）について、理解度・納得度は深まりましたか。



選択肢
① 非常に深まった
② まあまあ深まった
③ 変わらない
④ 深まらなかった
⑤ もともと理解してた

【質問】 「まち協（まちづくり協議会）とは」（案）について理解度・納得度は深まりましたか。



選択肢
① 非常に深まった
② まあまあ深まった
③ 変わらない
④ 深まらなかった
⑤ もともと理解してた

市民の声

※まち協、行政、地域がゆるやかにつながることで住む社会がよくなっていくと感じました。行政とまち協のつながりは、同じ目線で、地域の情報や課題を共有することが大切でまち協の役割は地域と行政をつなぐ役目だと思いました

※「持続的」に続けるために、ゆるやかには大事だと思いました。地域の連携をとれるようにもっと頑張りたいと思います。ワークショップがとても良かった。少人数だと意見も言い易い。また次も参加したいと思います

※一人一人の負担を軽減するために活動に参加するメンバーを増やして行く。その為には、やってる本人が先ずは楽しみながら沢山の方々とゆるやかに連携したいです。一人の百歩より百人の一步で繋がることに意義があると思います

※「ゆるやかなつながり」の『ゆるやか』という点ですが、円卓のダンボールを支えているこの状況がまさにそれではないか、と思いました。誰かが、ではなく、みんなで無理なく、自然に、実は支え合っているというのが理想の姿かもしれません





会場を明るく華やかな雰囲気に演出した旗は若狭公民館で活動するネパールのタマンソサエティ（タマン族のコミュニティ）代表のプラカスにお借りしました。つながりの大切さを実感しました！感謝です！！

行政職員の声

＊まちづくり協議会関係者の自らの地域を良くしていきたいとの強い思いが感じられ、行政もしっかりと伴走していかないと、今度は行政の声かけにも応えてもらえないのではと感じた

＊無理のない進捗で良かったと思います。3時間の意見交換があったという間に感じました。なにより皆さんが楽しく参加していて良かったです

＊繋がりの無くなった社会を皆さんの意見を聞きながら想像できた事が学びになった。行政の関わり方などに那覇市の覚悟を感じました。ぜひ全庁的な取組みとして進めて欲しい

【庁内に共有したい事】

＊これほど多くの市民の皆さんが那覇市のことを想って日々活動していることを共有したい。

＊市民とゆるやかなつながりを構築する仕組みが必要

＊受け身でなく現場に出向いて課題把握する

＊部の所管業務と関係する団体とのつながりを大切にしていくこと。それを個別計画に反映させていく。全体化した時には協働の輪が広がっていくと思います

おわりに

今回の意見交換会を通じて、市民と行政の間で、新たな「地域づくりのみちしるべ」が目指す方向性、特に「ゆるやかなつながり」の重要性と、まち協がプラットフォームとして機能することの意義について、理解度と納得度が深まりました。

また、継続的な地域づくりを進めるためには、「コーディネーター」の存在が不可欠であるという共通認識を、参加者で確認することができました。これは、今後の方針改定と人材育成を進める上で、大きな成果となりました。

まちづくり協働推進課では、市民の皆様の熱意を受け、行政として「支援者」から「協働のパートナー」へとその役割を明確化し、「市民と行政が両輪で活動していく」ことを大切に進めてまいります。

参加者からは「また開催してほしい」、「他のまち協へも参加してみたい」といった声が多数寄せられており、今回の対話の場が、地域と行政の協働のきっかけ、そして地域間の連携を深める第一歩となったことが伺えます。

今後も、まちづくりの先輩方の意見や、AIなどのデジタル技術の活用法を共有しながら、行政は「話し合いをすること」を大切にし、市民の皆様の「無理なく、ゆるく」活動を続けていきたいという思いに寄り添いながら、持続可能な地域共生社会の実現に向けて一步一步着実に進んでまいります。



那覇市 市民文化部 まちづくり協働推進課 電話：098（861）3846

各まちづくり協議会の様子がみられるようにホームページを更新しました！



◀ワークショップで話しかれている内容やアンケート結果の詳細はこちら！